

小笠原村立母島小中学校 校歌

作詞作曲 川幡 潤子

一、 空にはばたく 鳥のように

海にきらめく 波のように

自由に 明るく たくましく生きる

赤く燃えてる夕日を

高くそびえる剣先を

心に映し いつの日も

ともに生きゆく 心豊かに

われらの母校 母島小中学校

二、 空に輝く 光のように

海にさざめく 波のように

自由に 明るく たくましく生きる

青くのびゆくヤシの木を

はるか広がる海原を

心に映し いつの日も

ともに生きゆく 心豊かに

われらの母校 母島小中学校

小笠原村立母島小中学校

教育目標

母島を誇りに思い、共によりよい社会を築くことのできる人間を目指し、自ら困難を乗り越え、思いやりをもって心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成を図る。

- (1) 意欲的に学ぶ児童生徒
- (2) 自らきたえる児童生徒
- (3) 社会のために尽くす児童生徒



児童・生徒数

児童数 33 名 生徒数 13 名 (令和4年4月現在)

住所 〒100-2211 東京都小笠原村母島字元地

電話 04998-3-2181/2182 FAX 04998-3-2184

HP <http://www.hahashouchu.ogasawara.ed.jp/>

母島で教え、教わる

— 母島という物語 —

浜辺に寄せては返す波のように、母島では出会いと別れが繰り返されていきます。それらは人と人とのつながりを生み、物語が紡がれています。ひとつひとつの物語は静かに積もっていき、やがてこの島のもつ歴史の一部となっていくきます。私たち教員にとってこの島で働くということとは、母島という物語の流れに加わることを意味しています。

母島は美しいところです。島の自然が織りなす風景が美しいのはもちろんのことですが、子供たちの純粋なまなざしや島の人々の温かさ、地域の行事やその一体感、そういったいろいろな美しいといえます。

令和四年度赴任者の声

母島の子供たちの印象は？



素直で元気いっぱいな子供たち。いろいろな種類のスポーツをやっており、いつも体を動かしているイメージです。

元気が良い。海で遊んでいる姿をよく見かける。年齢、学年関係なく、一緒に遊んで、ガジュ下で会話を楽しんでいるようです。面白くて、優しい子たちばかりです。

素直で明るい生徒が多い。身体能力の高い生徒が多いです。



東京から約一〇〇〇キロメートル

ル南の小笠原諸島、そこに母島はあります。竹芝桟橋からおがさわら丸で父島へ、そこからははじま丸に乗り継ぐ二航海。母島に着くには二十六時間ほどの時間が必要となります。母島が近づく中で目にする光景が心に焼きつき、忘れられないものになることでしょう。ボンブルと呼ばれる海の色、島の木々の鮮やかな色合いが作り出す景色。母島での教員としての物語はそこから始まります。

ここで、子供たちとかわり、日々の生活を送る中で大切なものを教わっているような気がします。ここでの経験は教員として、人として人生におけるかけがえのないものとなるはずですよ。

母島ならではの良さ、仕事で

やりがいを感じる時はどんな時ですか？

少人数のため、「二人一人」に目が行き届きます。中学校とも関わる機会があり、指導の幅が広がり自分の授業力もアップできます。

中学校だけでなく、小学校の教科も教えることになり、不安もあったが、自分の知らなかった世界を見ることが多く、とても勉強になります。

自然が豊かで子供たちがのびのび生活できる環境が素晴らしい。少人数なのでコミュニケーションを取りながら、授業を進められます。

令和5年度・令和6年度小笠原村小中一貫教育研究推進指定校

☆基礎学力向上のための、少人数指導の工夫
☆総合的な学習の時間を活用した小笠原学習

—母島小中学校ではこんな先生方を求めています—

○母島小中学校が目指す教育を理解し、力を尽くしてくれる先生

○情熱にあふれ、向上心があり、心身ともに健康な先生

○子供たちはもとより、地域とのかかわりを大切にしてくれる先生

島での生活は大変ですか？

島の生活には一か月ぐらいで慣れました。退勤後や休日には、島でしか経験できない活動に参加できるので、とても充実した時間を過ごせています。

さつきまで晴れていたのに、急に雨が降ってきて「洗濯物が！」となる時があった。色々と不便なことはあったが、赴任して一週間ほどで「まあいいか」と思えるようになってきた。精神的に健康になりました。

食事は出張所のお弁当（平日昼、夜）を活用しています。自然豊かな島での生活は貴重な経験になります。